

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 31人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(R3.4月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。



【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933

活動報告

霧ヶ谷湿原でチゴモズが繁殖 【報告者】 認定NPO法人西中国山地自然史研究会 上野 吉雄

霧ヶ谷は1964年から1986年にかけて牧場として利用され、そのほとんどはカモガヤなどの牧野植生でした。そこでは草原性鳥類のホオアカなどが繁殖していました。その後、牧場は閉鎖・放置され、1991年から1993年の3か年で行われた芸北町自然学術調査の時にはノイバラの群落の中に所々カラコギカエデがあるような植生でした。そこではモズやキジなどが繁殖していました。現在では、アブラガヤ、トモエソウ、クサレダマなどからなる草本やカンボク、カラコギカエデ、ハンノキなどが優占する湿性草原へと再生しています。

チゴモズ *Lanius tigrinus* はウスリー、朝鮮半島、中国東北部、日本などで繁殖し、中国南部、スマトラ、フィリピンなどで越冬します。国内では本州中部から東北地方にかけて局所的に渡来し繁殖しますが、個体数が減少傾向にあるので環境省により、絶滅危惧 I A類に選定されています。中国地方ではきわめて希に繁殖しており2006年に尾道市で繁殖が確認されています。



チゴモズのオス

霧ヶ谷では6月13日につがいが確認され、6月24日にはオスが餌を運んでおり、ひなが孵化したようです。7月18日には4羽のひなが巣立ちました。以後、8月1日まで巣外育雛をしていましたが、この日を最後に姿が見られなくなりました。

この間、県内を始め、大阪、倉敷、愛媛、香川、北九州など西日本各地から野鳥カメラマンが押し寄せました。

チゴモズ以外にも冬鳥として希少なオオマシコやアオシギなどもやってくるようになり、野鳥カメラマンの姿をいつも見かけるようになりました。

保全・管理部会や日本山岳会広島県支部を中心とし、様々な方の保全活動の努力により、湿性草原が維持され、ヒメギスを始めとした数多くの昆虫が生息するようになり、今回のチゴモズの繁殖に至りました。

これからも希少種であるチゴモズやミヤマホオジロが繁殖できる湿性草原が維持されるよう、みなさんと協力していきたいと思ひます。



チゴモズの生息地(上)

撮影に訪れた
野鳥カメラマン(右)

